

クリの凍害に対する危険度判定指標と対策技術マニュアル

あらかじめクリ園地の凍害に対する危険度を判定し、各園地の条件に適した対策を実施できる技術マニュアル

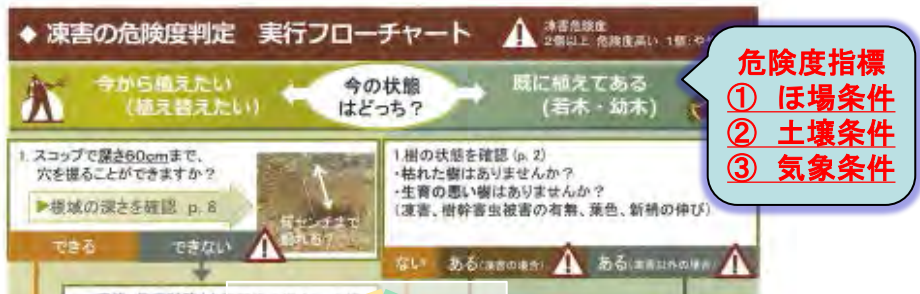
研究開発の背景

- ・新品種「ぼろたん」の登場、産地再生などを契機として、全国的にクリの新改植が増加。
- ・しかし、年により植えた樹の10～30%、著しい園地では70～80%が凍害を受け、20～50%の樹が枯死する事例もみられる。
- ・凍害は、改植・新植による産地拡大の大きな障害となっており、生産、加工等関係業界から、早急な対策技術の開発が求められている。

研究成果の内容

園地毎に凍害の危険度を判定し、それに応じた対策を選択できるマニュアルを策定※1

園地の各種条件から凍害の危険度を判定し、対策を選択できるフローチャート



- 危険度指標
- ① ほ場条件
 - ② 土壌条件
 - ③ 気象条件

凍害被害が多い2～4年生樹を中心に対策

11～2月に実施 (危険度が高い場合は毎年) ← 危険度に応じた技術対策 → 定植時、植栽後に危険度に応じて実施

園地条件に対応した株ゆるめ処理技術



反転鍬、スコップ処理

フォーク型バケット処理

専用アタッチブレード処理

高畝マルチ、全層破碎技術



高畝マルチ

全層破碎処理

導入メリット

凍害による枯死樹率を5%以下に抑えることで
 ☆凍害による経費のロスを削減
 ☆成園化率の向上と単収の高位安定

- ・凍害による損失 (枯死樹率20%の場合)
 苗木代…▲12千円
 植付労力…▲18千円
 成園化の遅れ (単収減)…▲20%

○危険度判定と株ゆるめに係る経費(10a当り)
 危険度判定には、土壌分析費用等の数千円(1回)、株ゆるめには5万円※2程度(3年間分)

出荷開始から3年程度で費用は回収可能
 ※2 機械設備費は除く。

表 株ゆるめ処理による経営試算(単位千円)

	処理経費	凍害による損失	結実3年目までの収益	結実3年目までの収支	結実5年目までの収支
株ゆるめ	▲51	0	154	103	581
無処理	0	苗木▲12 管理▲18	123	93	476
メリット	▲51	30	31	10	104

注) 40本/10a、養成期間4年、凍害による枯死樹率20%、株ゆるめ処理は3年間実施

期待される効果

※1本マニュアルは、兵庫県立農林水産技術総合センターのホームページよりダウンロード可能

- ・クリ優良品種の導入促進、生産安定が可能となり、産地化が促進。
- ・加工業者や消費者の需要に対し、国産のクリを安定して提供可能。

導入をオススメする対象
 全国のクリ生産者、生産団体 等